



赤村

もしものための

防災マップ

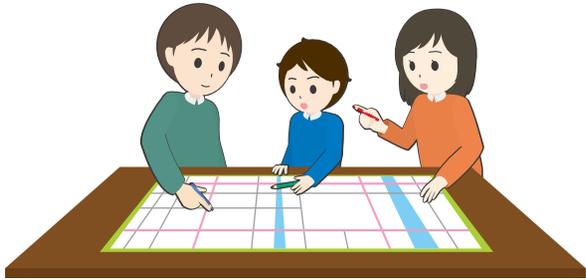
防災マップの使い方と避難

この防災マップは、災害の発生により被害が想定される内容、場所を事前に知っていただき、災害に備えていただくことを目的としています。

防災マップの使い方

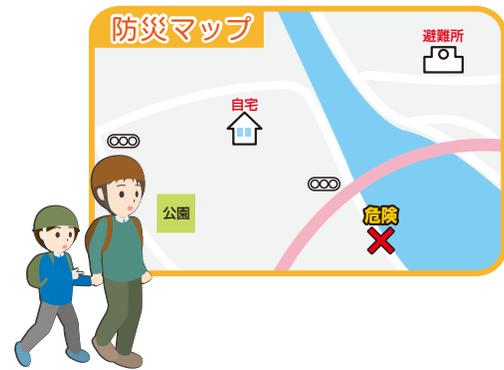
まず、自宅の位置を確認しましょう。

災害が想定される位置を確認しましょう。自宅がある場所は、どのような災害が予想されるのかを、地図をみて確認しましょう。



災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう。

避難経路を地図で確認し、土砂災害や洪水などの災害が想定される場所を避けて避難できるようにしましょう。



次に、自宅付近の避難所を確認しましょう。

自宅に一番近い災害に応じた避難所を地図で確認しましょう。



実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

家庭や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



目次

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ●避難情報 …………… 1 | ●地震による災害 …………… 6 |
| ●洪水 …………… 2 | ●赤村における地震の想定 …………… 7 |
| ●土砂災害 …………… 3 | ●避難施設一覧 …………… 8 |
| ●風水害・台風 …………… 4 | ●赤村全体図・索引図 …………… 9 |
| ●防災情報の配信 | ●ハザードマップ …………… 10～27 |
| 緊急時のテレホンガイド …………… 5 | ●非常時持ち出し品の準備&チェック ……28 |

発行:赤村 制作・著作:株式会社ゼンリン 作成:令和2年3月

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平29情使、第444-1463号)」

「この地図は、赤村長の承認を得て、同村所管の測量成果赤村基本図1/2,500を使用して調製したものです。(承認番号)平成31年4月5日 31赤産建第15号-1」

(禁無断複製) ©2020 ZENRIN CO., LTD.

避難情報

集中豪雨や台風などによって、水害や土砂災害などの災害が発生するおそれがあるとき、どの情報をもとに、どのタイミングで避難をするべきか？それぞれの状況に応じて避難できるよう、災害発生危険度と住民の方々が取るべき行動を5段階の「警戒レベル」を用いてお伝えします。

<避難情報等>

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル 5	既に 災害が発生 している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。	災害発生情報 ※1 ※1 災害が実際に発生していることを把握した場合には、可能な範囲で発令 〔市町村が発令〕
警戒レベル 4 全員避難	速やかに避難先へ避難 しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 ※2 避難指示(緊急) ※2 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令 〔市町村が発令〕
警戒レベル 3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者 は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 〔市町村が発令〕
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの 避難行動を確認 しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 〔気象庁が発表〕
警戒レベル 1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 〔気象庁が発表〕

<防災気象情報>

【警戒レベル相当情報(例)】

警戒レベル5相当情報

氾濫発生情報
大雨特別警報 等

警戒レベル4相当情報

氾濫危険情報
土砂災害警戒情報 等

警戒レベル3相当情報

氾濫警戒情報
洪水警報 等

(国土交通省、気象庁、都道府県が発表)

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

～各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。～

大雨のとき

各河川ごとの水位基準が避難を要する水位に達したときや、県と気象庁が共同で土砂災害警戒情報を発表したときに避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。



大雨のときの避難行動

避難は災害から命を守るための行動です。大雨による災害から身を守る避難行動は、従来、避難勧告等の発令時に行う避難所への避難が一般的でしたが、今後は次の全ての行動を避難行動とします。

屋外が安全で移動できる状態のとき			屋外が危険な状態などのとき
1 指定避難所への移動	2 警戒区域等内の自宅などから移動し、安全な場所へ避難 (公園、親戚や友人の家等)	3 近隣の強固で高い建物等への移動	4 建物内の安全な場所での待避 (家屋内の垂直避難) やむをえず家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として水害対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策には斜面と反対方向の高い部屋への移動が有効です。

特に、河川氾濫の浸水地域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、皆さんが早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる自主避難をすることが命を守ることになります。

地震のとき

大きな地震に伴って、建物の倒壊の危険や火災発生のため、避難が必要なときや、土砂災害の危険が切迫しているとき、または危険物取扱施設の爆発など、二次災害が発生する恐れがあるときに避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。



火災のとき

大規模に延焼が拡大するおそれがあるときに避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。



その他

災害が発生するおそれがあるときに避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)を発令します。

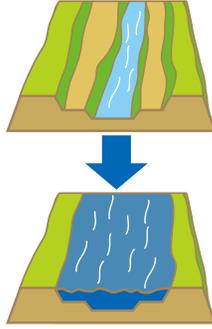
洪水

強い雨が広範囲に、長時間続くときに、洪水災害が発生する危険性が高まります。
発生メカニズムを知り、堤防決壊の前兆に注意しましょう！

洪水の基礎知識

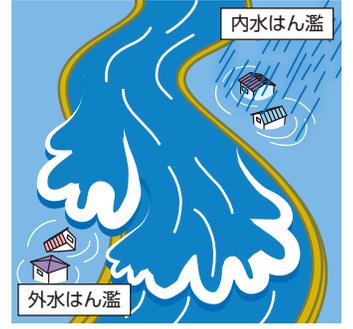
洪水

洪水とは大雨によって、川の水の量がふだんより、いちじるしく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに細い川しか流れていませんがそれがふだんの姿です。ところが川幅いっぱいにおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。



はん濫

はん濫とは、雨などによって、街や農地などに水があふれることで、川から水があふれることを「外水はん濫」といいます。川から水があふれたのではなく、街や農地に降った雨がそのままたまってあふれることを「内水はん濫」といいます。



右記のような前触れに注意して、危険を感じたら速やかに避難しましょう

- 堤防の川側が崩れ始めたとき
- 水かさが増し、堤防に亀裂が生じたとき
- 堤防の側面から水が漏れ出したとき
- 増水が早く、水が堤防を越えそうとき
- 水が激流となって堤防の土が削り取られたり、護岸が壊れ始めたとき
- 堤防近くの地盤から水が噴き出すとき

河川水位及び危険度レベル

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

レベル	水位	村や住民に求める行動
5	はん濫の発生	・村および住民は、新たにはん濫が及ぶ区域で避難の判断が必要
4 (危険)	はん濫危険水位	・住民の避難完了
3 (警戒)	避難判断水位	・村は避難勧告等の発令を判断 ・住民は避難を判断 ↓ 避難勧告の発令
2 (注意)	はん濫注意水位	・村は避難準備情報発令(要救護者避難情報)を判断 ・住民ははん濫に関する情報に注意 ・水防団出動 ↓ 避難準備・高齢者等避難開始情報の発令
1	水防団待機水位	・水防団待機

まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応

福岡県の河川の水位情報がご覧になれます。
福岡県河川防災情報(河川水位・ダム情報・雨量情報)
<http://www.kasen.pref.fukuoka.lg.jp/bousai/>

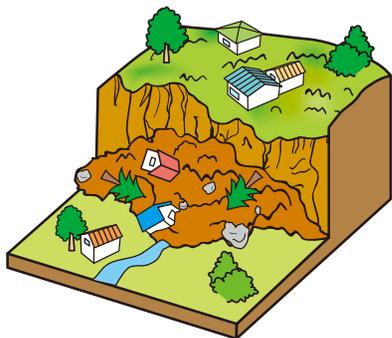


土砂災害

土砂災害の前触れに注意し、気がついた場合には速やかに避難しましょう！

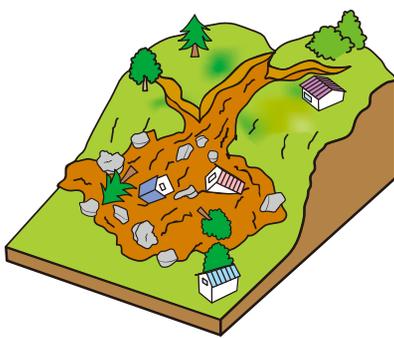
土砂災害の種類

急傾斜地崩壊(がけ崩れ)



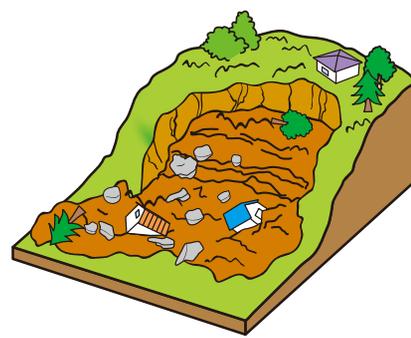
がけ崩れは、地中にしみ込んだ水分で斜面が突然崩れ落ちます。瞬時に崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。また、地震が原因で起こることもあります。

土石流



土石流は、谷筋で起きます。大量の土・石・砂等が集中豪雨など大量の水と混じり合って流れてくるので、速度が速く大きな破壊力を持っています。

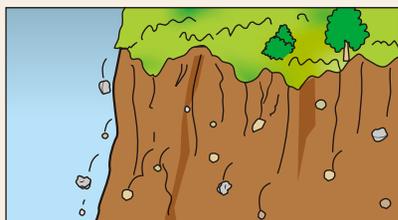
地すべり



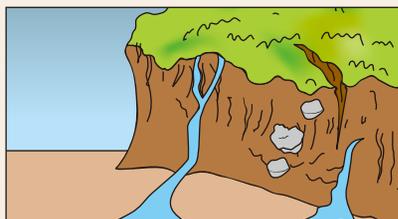
地すべりは、粘土などの滑りやすい地盤が一度に広い範囲で動き出します。速度はゆるやかですが、発生すると広い範囲で道路や建物に被害をもたらします。

予兆現象

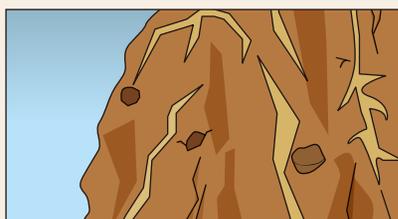
- がけから小石がぱらぱら落ちてくる



- がけから水が湧き出る

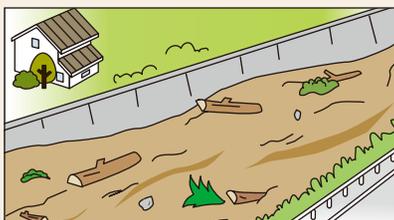


- がけに割れ目が見える

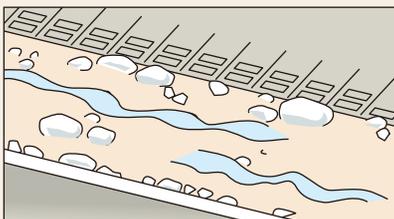


予兆現象

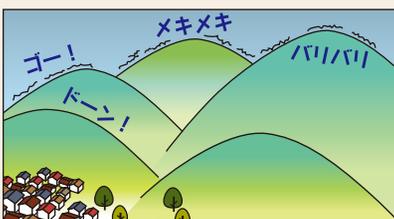
- 急に川の水がにごり流木が混ざる



- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる

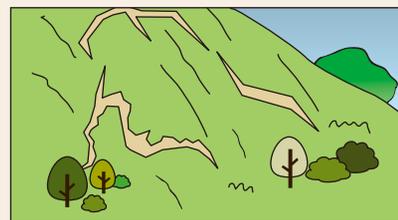


- 山鳴りがする

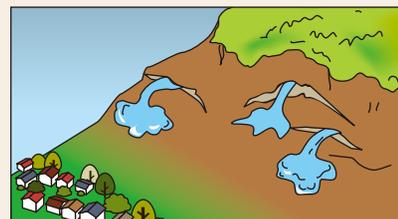


予兆現象

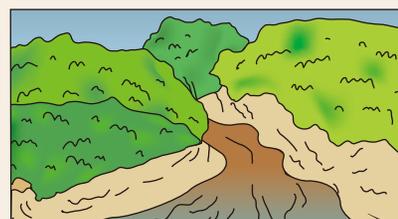
- 地面にひび割れができる



- 斜面から水が噴き出す



- 沢や井戸の水がにごる



危険箇所

土石流危険渓流とは・・・

土石流の発生する恐れがある渓流で、人家(人家が無くても官公署、学校、病院及び社会福祉施設等の災害時援護者関連施設・駅・旅館・発電所等の公共施設がある場合を含む)に被害を及ぼす恐れがある渓流をいいます。

急傾斜地崩壊危険箇所とは・・・

勾配30°以上、高さ5m以上の急傾斜地で、人家(人家が無くても官公署、学校、病院及び社会福祉施設等の災害時援護者関連施設・駅・旅館・発電所等の公共施設がある場合を含む)に被害を及ぼす恐れがある箇所をいいます。

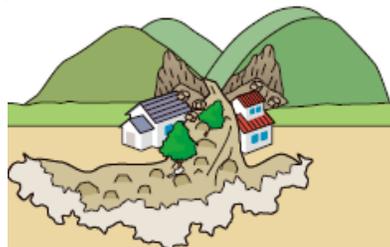
山地災害危険地区

さんぷくほうかい 山腹崩壊危険地区



山崩れや落石等による災害の恐れがある地区

崩壊土砂流出危険地区



山崩れによって発生した土砂流出が土石流となって流出する恐れがある地区

地すべり危険地区



地すべりによる災害が発生するおそれがある地区(赤村は該当なし)

山地災害危険地区の詳細な位置については、右記URLよりご確認ください。 <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/sanchi-map.html>

風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
 ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策。

大雨注意報・警報の発表基準

記録的短時間大雨情報	大雨注意報	大雨警報
1時間雨量が110mm以上	(浸水害) 表面雨量指数基準 15 (土砂災害) 土壌雨量指数基準 98	(浸水害) 表面雨量指数基準 19 (土砂災害) 土壌雨量指数基準 151

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm 以上~20mm 未満	20mm 以上~30mm 未満	30mm 以上~50mm 未満	50mm 以上~80mm 未満	80mm 以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒 以上~15m/秒 未満	15m/秒 以上~20m/秒 未満	20m/秒 以上~25m/秒 未満	25m/秒 以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。

台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

(平均風速:m/秒)

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km 以上~800km 未満	強い	33m/秒 以上~44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上~54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

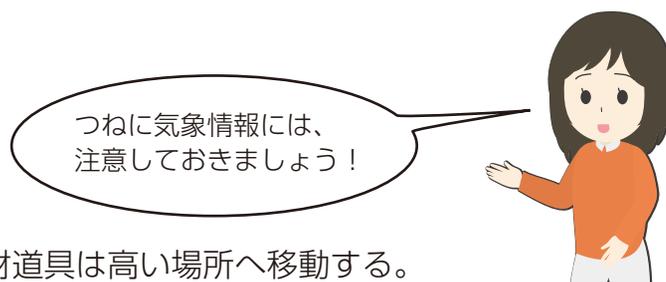
集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。

発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。

- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。



防災情報の配信 緊急時のテレホンガイド

福岡県及び赤村では、災害から身を守るために役立つ防災情報を携帯電話を用いた以下二つの方法により配信しています。携帯電話をお持ちの方は、ぜひ活用しましょう。

防災メール・まもるくん

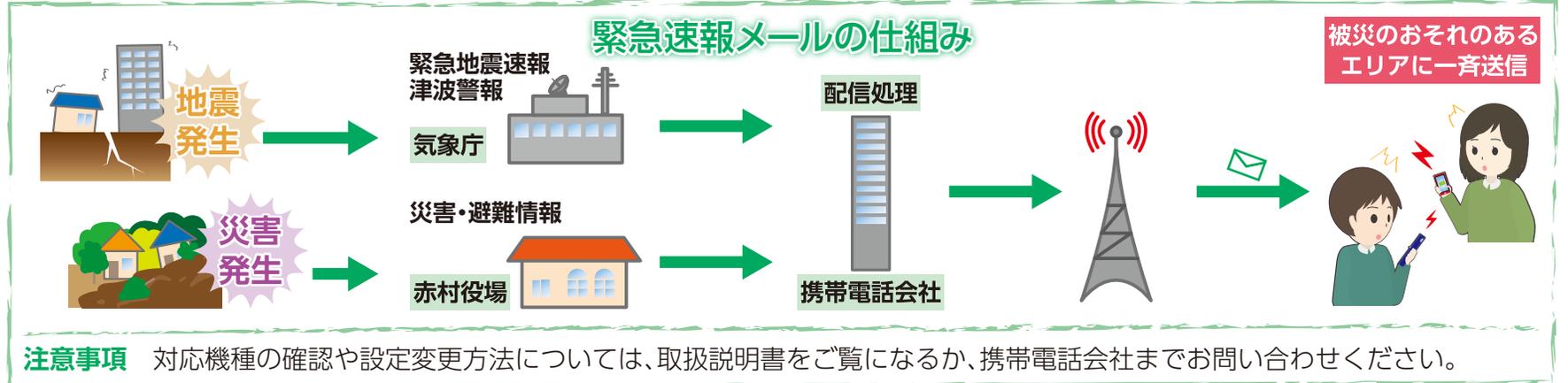
大雨や台風、地震・津波などの気象情報や避難勧告などの防災情報をメールで知らせるサービスです。

まもるくん4つの機能!!

- ①地震、津波、台風、大雨等の防災気象情報、避難勧告等の配信
- ②災害時の安否情報通知
- ③地域の安全に関する情報の配信
- ④福岡県避難支援マップ

緊急速報メール

気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、赤村が配信する避難勧告等の防災情報を村内にいる携帯電話をお持ちの方全員に一齐配信するサービスです。登録手続きは不要で、対応した機種種の携帯電話であれば、基本的に自動受信されます。



困った時の連絡先

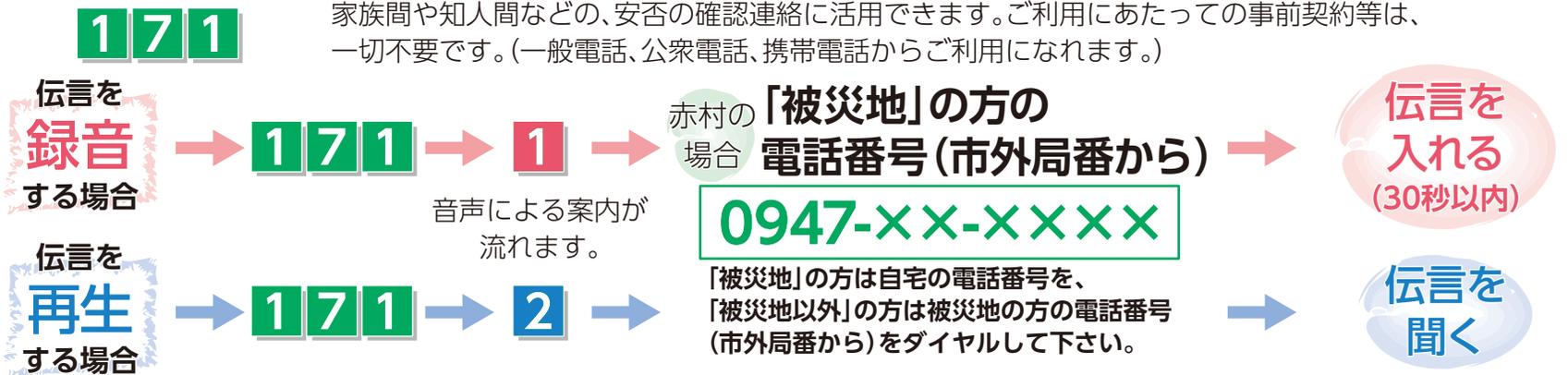
防災全般に関しては	赤村役場	0947-62-3000
火事・救急は	田川地区消防本部	0947-44-0650(または119番へ)
行方不明・交通・防犯等は	田川警察署 田川警察署赤駐在所	0947-42-0110(または110番へ) 0947-62-2026
県道・今川に関しては	福岡県田川県土整備事務所	0947-42-9111

災害用伝言サービス

災害用伝言ダイヤル

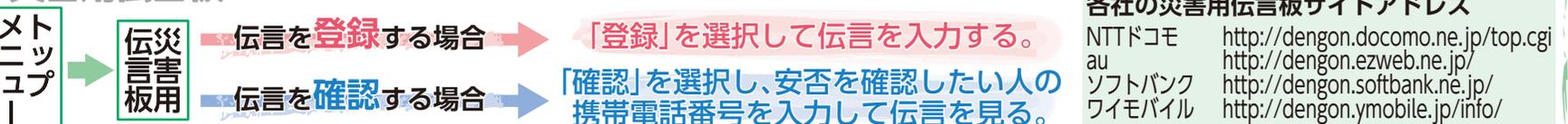
災害発生時に被災地の方と連絡・安否確認

家族間や知人間などの、安否の確認連絡に活用できます。ご利用にあたっての事前契約等は、一切不要です。(一般電話、公衆電話、携帯電話からご利用になれます。)



携帯電話の災害用伝言板

携帯電話・PHSのインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、携帯電話・PHS番号をもとにして全国から伝言を確認できます。(スマートフォンでのご利用については、各社のページでご確認下さい。)



防災情報インターネットサイト

各種防災情報はテレビやラジオはもちろん、インターネットで収集が可能です。ここでは代表的な以下のサイトを紹介いたします。

提供情報	提供機関	アドレス
気象情報	気象庁	https://www.jma.go.jp/
防災情報	国土交通省九州地方整備局	https://www.qsr.mlit.go.jp/bousai_joho/
	福岡県防災ホームページ	https://www.bousai.pref.fukuoka.jp/

地震による災害

大地震が起きると「振動(揺れ)」「液状化」「土砂災害」「地震災害」「津波」などがほぼ同時に起こり、大きな被害が生じる恐れがあります。周囲の状況を判断して、まず自分自身の身の安全を確保し、消防署員及び消防団員、警察官などの指示に従って近所の人と一緒に徒歩(原則)で避難所等安全な場所に避難しましょう。

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意
- 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に
声をかけよう

出火防止
初期消火

- 要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか
- 初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 ●電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- 余震に注意

ラジオなどで正しい情報を得る

- 大声で知らせる ●救出・救護を求める
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認 ●デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない ●電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう ●災害・被害情報の収集
- 無理はやめよう ●助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない

5分

10分

数時間

3日

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

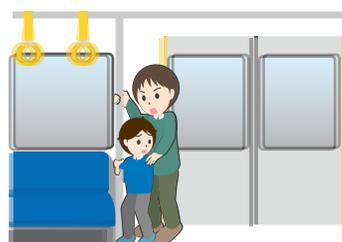
海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



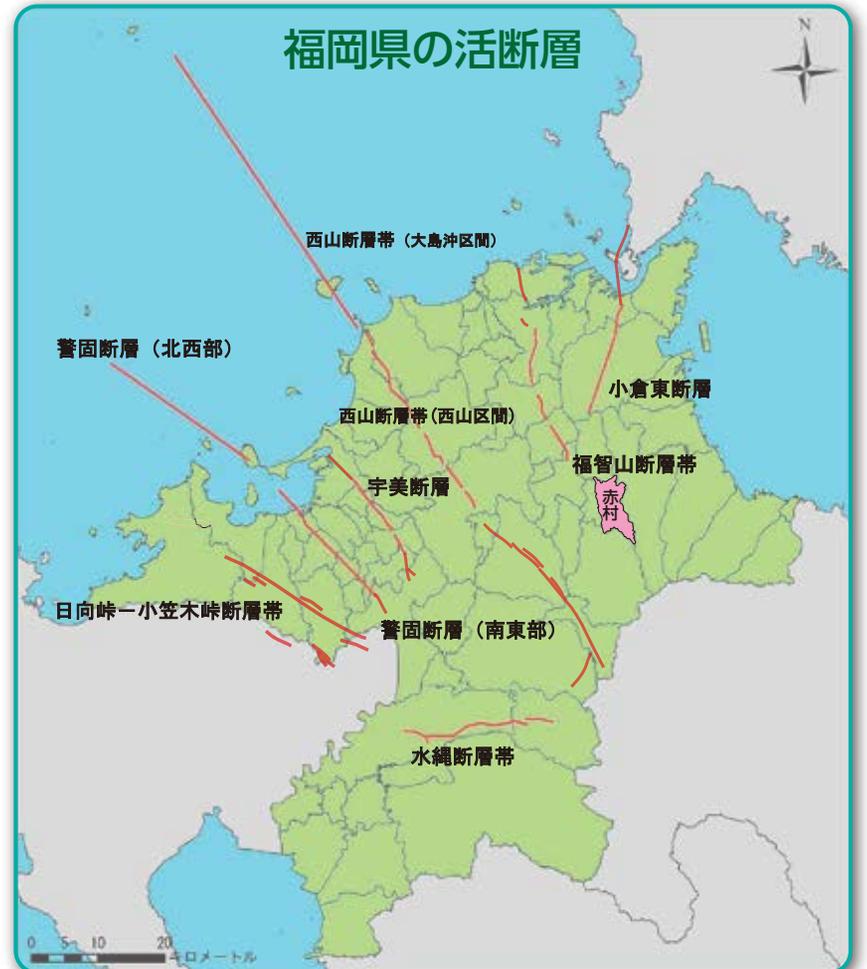
赤村における地震の想定

福岡県では、今後大きな被害をもたらすと予想される地震について調査・検討を実施し、その結果を「地震に関する防災アセスメント調査報告書(平成24年3月 福岡県)」により明らかにしています。そこで、この調査での赤村における地震想定の詳細をお知らせします。

福岡県内の活断層について

福岡県には、大きく分けて6つの活断層が存在し、その活断層における地震規模と30年以内の地震発生確率は以下のようになっています。

活断層	地震規模 (マグニチュード)	30年以内の 地震発生確率
小倉東断層	M6.9	0.005%
西山断層	M7.3	不明
警固断層	M7.2	0.3~6%
水縄断層	M7.2	ほぼ0.0%
福智山断層	M7.0	0.6%
宇美断層	M6.7	不明



赤村における震度予測

県内の活断層を震源とする地震が発生した場合の赤村における最大想定震度は、以下のようになっています。また、県の調査報告によると、活断層がない地域においても直下型地震の震源となる可能性があることから、その想定地震を「直下10kmを震源とするマグニチュード6.9の地震」と位置づけ、最大想定震度を予測しています。その結果も以下に示します。

活断層	最大想定震度
小倉東断層	6弱 (立っていることが困難になる。)
西山断層	6弱
警固断層	6弱
水縄断層	6弱
福智山断層	6弱
宇美断層	5強 (物につかまらなさと歩くことが難しい。)



直下10kmを震源とするM6.9の地震が発生した場合	最大想定震度
	6強 (はわなないと動くことが出来ない。飛ばされることもある。)

避難施設一覧

No.	避難施設名	指定緊急避難場所としての指定					指定避難所としての指定
		対象とする異常な現象					
		洪水	内水氾濫	土砂災害	地震	大規模火災	
①	赤村住民センター	○	○	○	○	○	○
②	赤小学校	○	○	○	○	○	○
③	赤小学校体育館	○	○	○	○	○	○
④	赤小学校上赤分校	×	○	○	○	○	
⑤	赤中学校	○	○	○	○	○	○
⑥	赤中学校体育館	○	○	○	○	○	○
⑦	赤村人権福祉センター	○	○	○	○	○	
⑧	上赤集会所	○	○	○	○	○	
⑨	小内田多目的集会所	○	○	○	○	○	
⑩	大内田研修センター	○	○	○	○	○	
⑪	小柳地区集会所	○	○	○	○	○	
⑫	源じいの森	○	○	○	○	○	○
⑬	赤村健康増進センター	○	○	○	○	○	○
⑭	赤村保健センター	○	○	○	○	○	○
⑮	源じいの森温泉	○	○	○	○	○	○
⑯	下赤集会所	○	○	○	○	○	
⑰	地蔵の木・珠数丸集会所	×	○	×	○	○	
⑱	横通り・大原集会所	○	○	○	○	○	
⑲	前ガ原集会所	×	×	○	○	○	
⑳	油須原コミュニティセンター	×	○	○	○	○	

指定緊急避難場所及び指定避難所について

指定緊急避難場所及び指定避難所とは、災害対策基本法に基づく避難施設であり、一定の基準を満たす施設を市町村長が指定するものです。

指定緊急避難場所

災害の危険から命を守るために緊急的に避難する場所です。

上記一覧表の中で例を挙げると……

地蔵の木・珠数丸集会所は土砂災害の危険が高まっている状況では使用できないということになります。

指定避難所

災害の危険性があり避難した住民等が、災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを目的とした場所です。

非常時持ち出し品の準備&チェック

非常時持ち出し品《例》

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



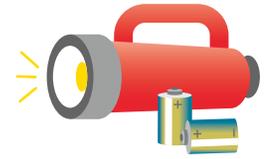
- 常備薬
- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 鎮痛剤

貴重品



- 現金
- 印鑑
- 健康保険証
- 預金通帳
- 免許証
- 権利証書

懐中電灯



- 懐中電灯
(できれば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品等

火を通さないうちで食べられるもの、食器など



- 非常用食品
- 水筒
- 缶切り
- 缶詰
- 紙皿
- ミネラルウォーター
- 紙コップ
- 栓抜き

その他

- ろうそく
- 軍手
- 応急手当て用品

- 衣類(下着・上着など)
- 生理用品
- 粉ミルク
- ウェットティッシュ
- ヘルメット
- ラップフィルム
(止血や食器にかぶせて使う)
- 防災マップ(本書)
- ロープ
- ハサミ
- 筆記用具・メモ帳



- 家族の連絡先
- 安否確認方法
- タオル
- 紙おむつ
- カップ
- ライター
- 携帯電話
- 携帯電話の充電器
- ゴミ袋
- ビニールシート

非常時用備蓄品《例》

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど

非常食品



- お米(缶詰・レトルト・アルファアムも便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

定期点検!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持ち出し用品の不備を定期的に点検しましょう。

非常時持ち出し品は定期的に点検を!

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、スコップなど。



阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、新聞紙、補助用具としてスコップ、バールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持ち出し品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

緊急時の連絡先

赤村役場	警察	消防・救急	災害用伝言ダイヤル
0947-62-3000	110	119	171

わが家の防災メモ

家族で話し合い記入しておきましょう!

わが家の避難場所

土砂災害時

洪水時

家族の緊急集合場所

親戚、知人の連絡先

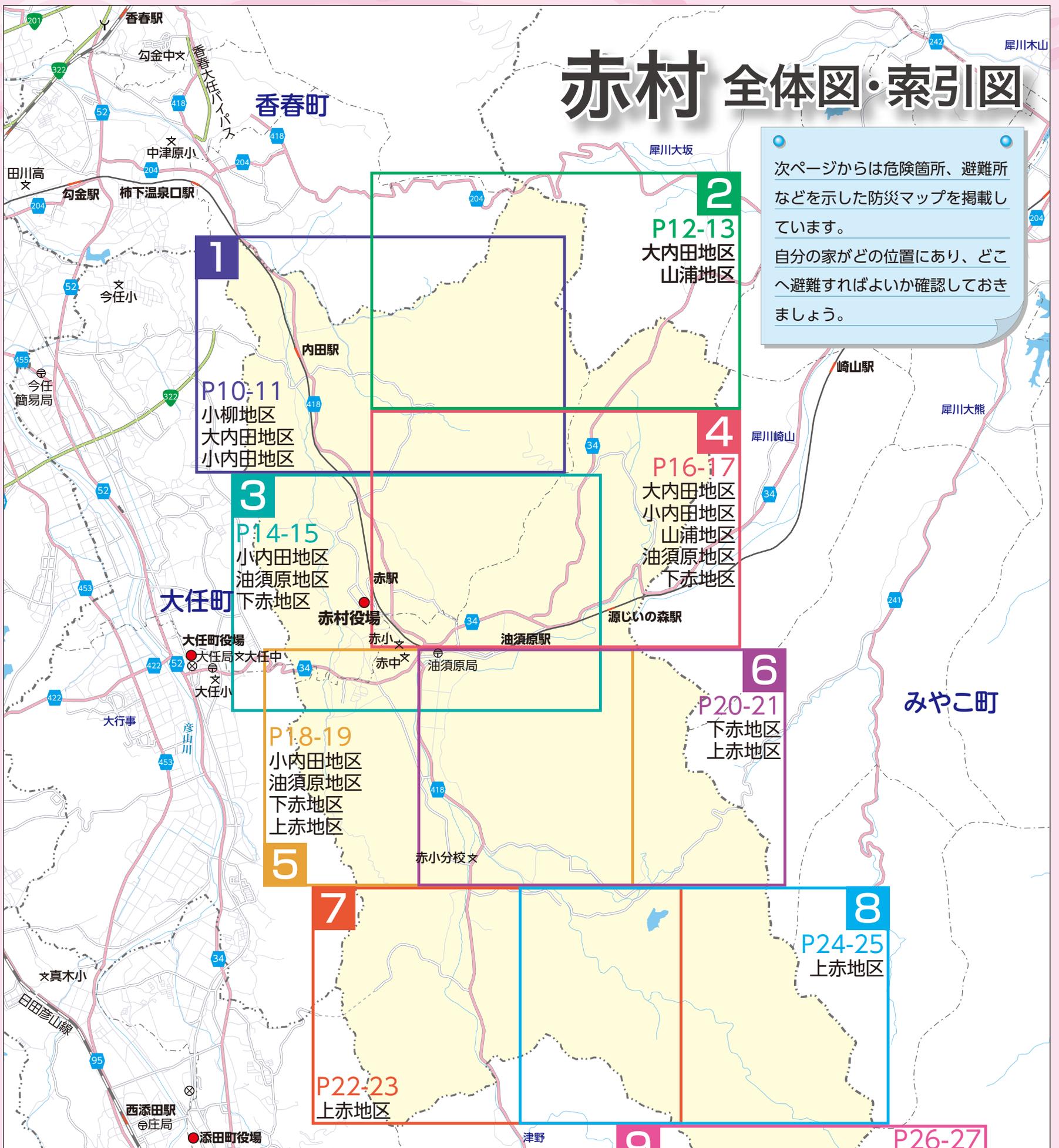
氏名	住所	電話番号	勤務先、学校など

家族の緊急用データ

氏名	生年月日	血液型	アレルギー	病気	常備薬	かかりつけ医

メモ欄

赤村 全体図・索引図



次ページからは危険箇所、避難所などを示した防災マップを掲載しています。
自分の家がどの位置にあり、どこへ避難すればよいか確認しておきましょう。

浸水想定区域と浸水深

福岡県が管理している今川について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示しております。指定時点の今川の河道及び洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により今川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

指定年月日：平成30年4月27日
指定の前提となる降雨：今川流域の24時間の総雨量958mm

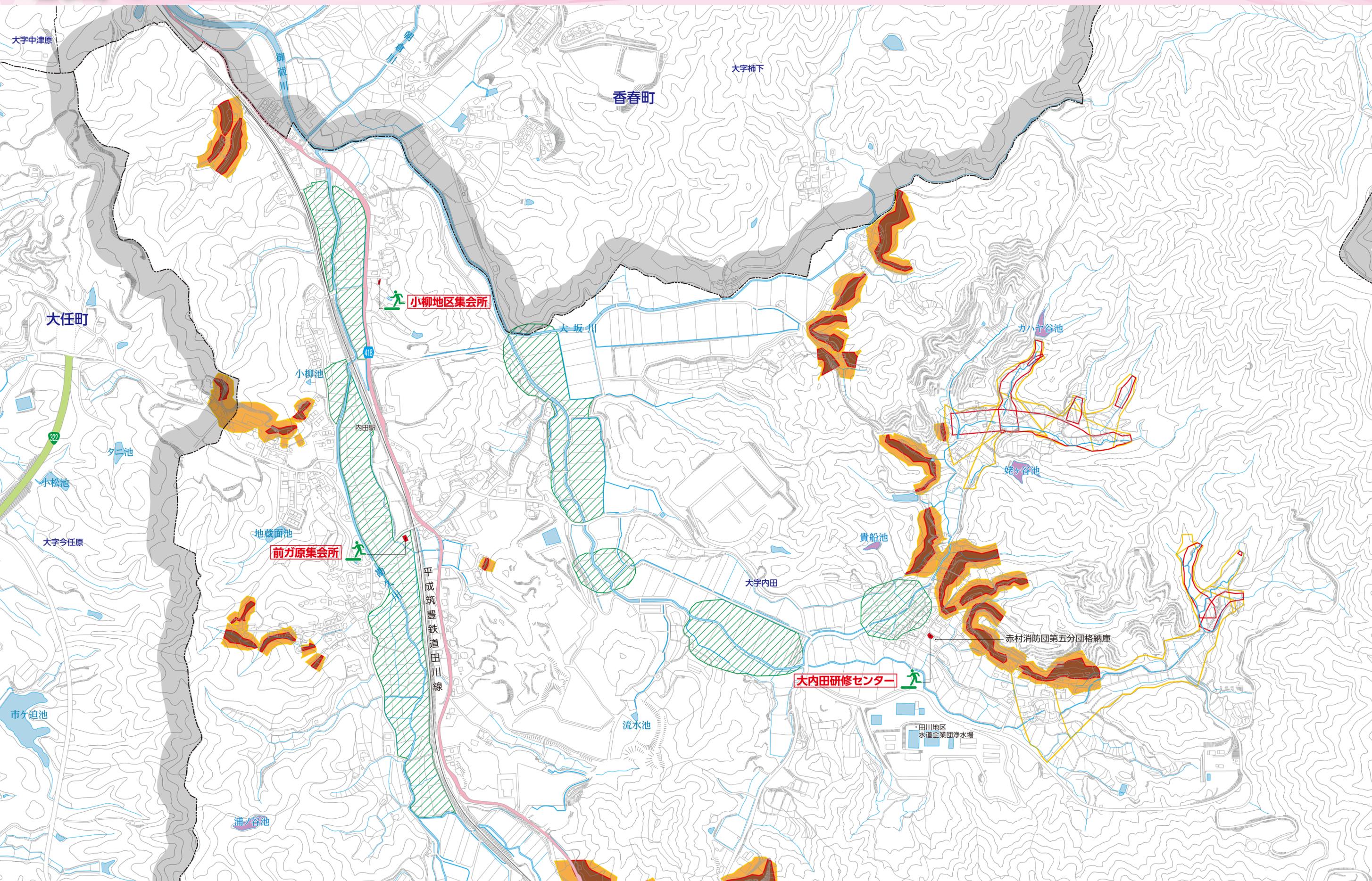
土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域について

県では、土砂災害のおそれがある区域を「土砂災害警戒区域(イエローゾーン)」に、さらにそのなかでも建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域を「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)」に指定しています。
住まいがある土地が警戒区域に入っていないかハザードマップで確認しておき、家が当該区域にある場合は早めに避難するようにしてください。

- ・土砂災害警戒区域(イエローゾーン)……………土石流・がけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域
- ・土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)……………土石流・がけ崩れなどの土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じる恐れがあると認められる区域

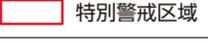
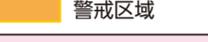
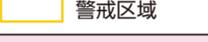
地図 1

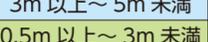
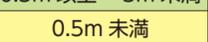
凡例		指定緊急避難場所		国道		警察署・交番	急傾斜地	土石流	地すべり	洪水浸水想定 浸水深区分		平成 24 年 7 月 九州北部豪雨 浸水実績区域	 1 : 6,800 0 100m 200m
		指定避難所		県道		村役場							
				防災重点ため池		学校				3m 以上～5m 未満			
										0.5m 以上～3m 未満			
										0.5m 未満			



地図 2

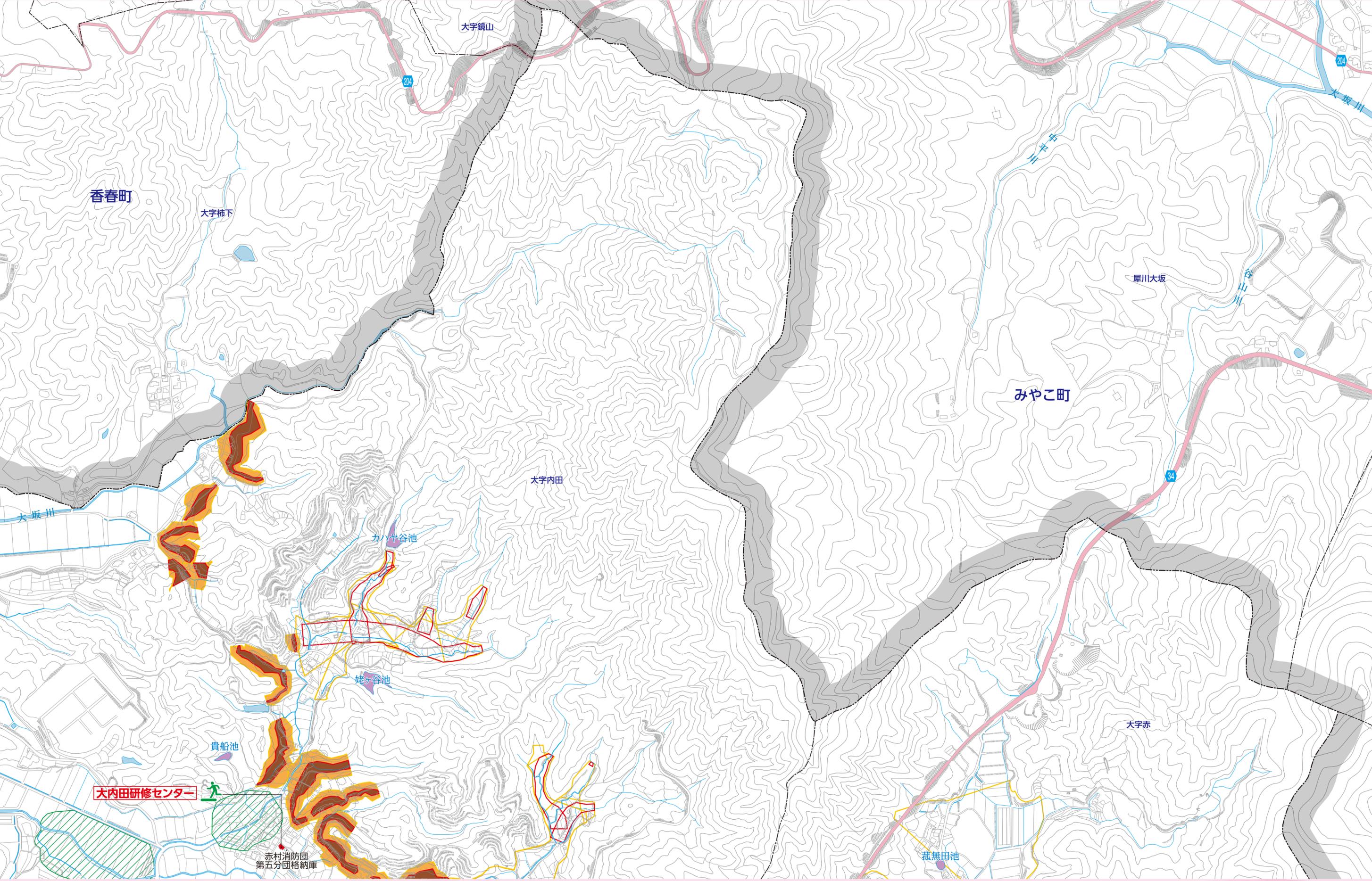
凡例		指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
		指定避難所		県道		村役場
				防災重点ため池		学校

危険がある場所 土砂災害の	急傾斜地	土石流	地すべり
	 特別警戒区域	 特別警戒区域	 警戒区域
	 警戒区域	 警戒区域	

洪水浸水想定 浸水深区分	 5m 以上～10m 未満
	 3m 以上～5m 未満
	 0.5m 以上～3m 未満
	 0.5m 未満

浸水実績区域
平成 24 年 7 月
九州北部豪雨

1 : 6,800
0 100m 200m



地図 3

凡例

	指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
	指定避難所		県道		村役場
			防災重点ため池		学校

危険がある場所
土砂災害の

	急傾斜地 特別警戒区域		土石流 特別警戒区域		地すべり 警戒区域
	警戒区域		警戒区域		

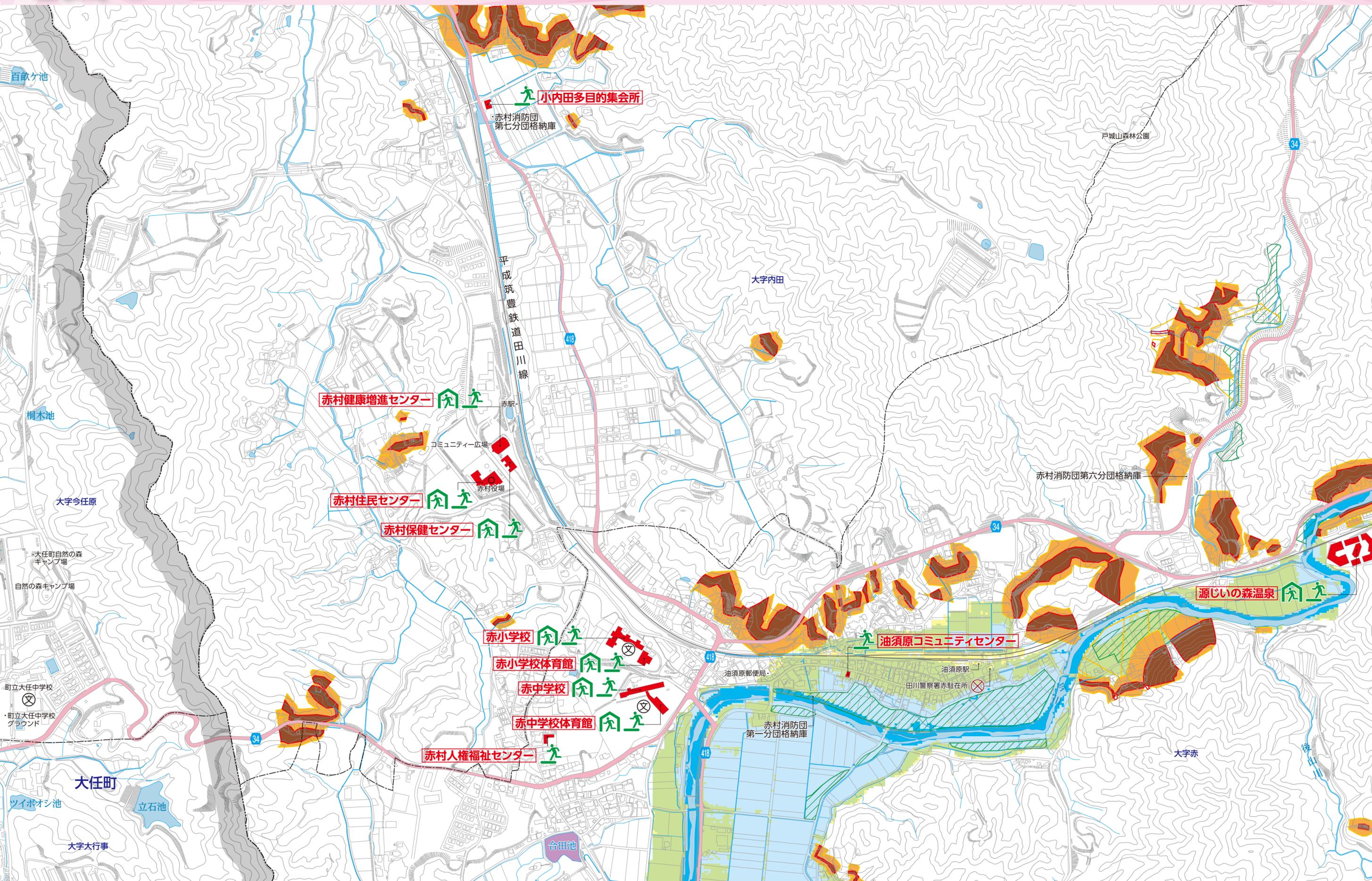
洪水浸水想定
浸水深区分

	5m 以上～10m 未満
	3m 以上～5m 未満
	0.5m 以上～3m 未満
	0.5m 未満

浸水実績区域

平成 24 年 7 月
九州北部豪雨

1 : 6,800
0 100m 200m

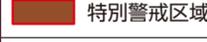
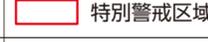
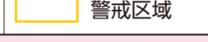
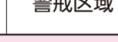


地図 4

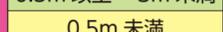
凡例

	指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
	指定避難所		県道		村役場
			防災重点ため池		学校

危険がある場所
土砂災害の

急傾斜地	土石流	地すべり
		
特別警戒区域	特別警戒区域	警戒区域
		
警戒区域	警戒区域	警戒区域

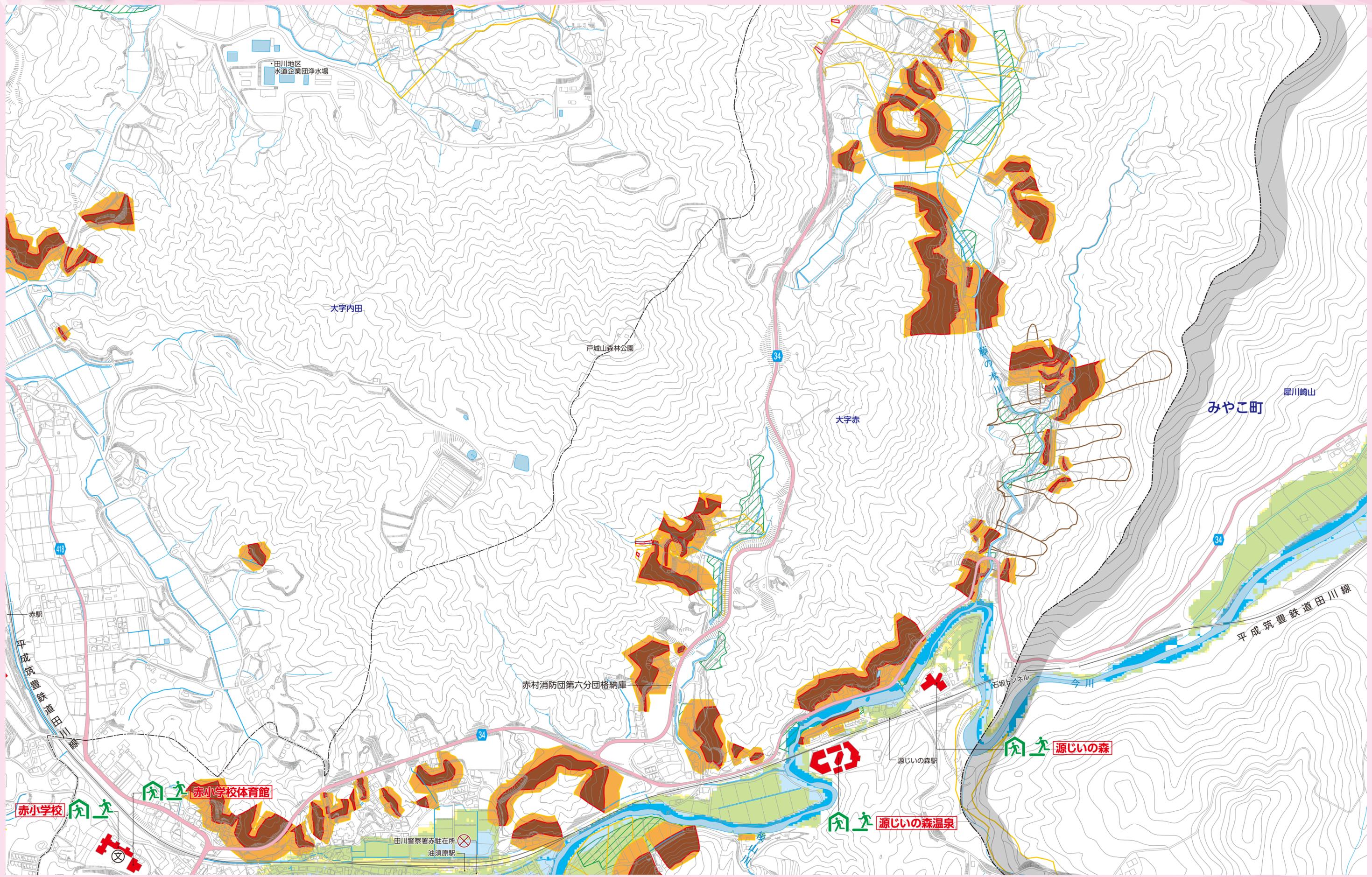
洪水浸水想定
浸水深区分

	5m 以上～10m 未満
	3m 以上～5m 未満
	0.5m 以上～3m 未満
	0.5m 未満

浸水実績区域

平成 24 年 7 月
九州北部豪雨

1 : 6,800
0 100m 200m

地図 5

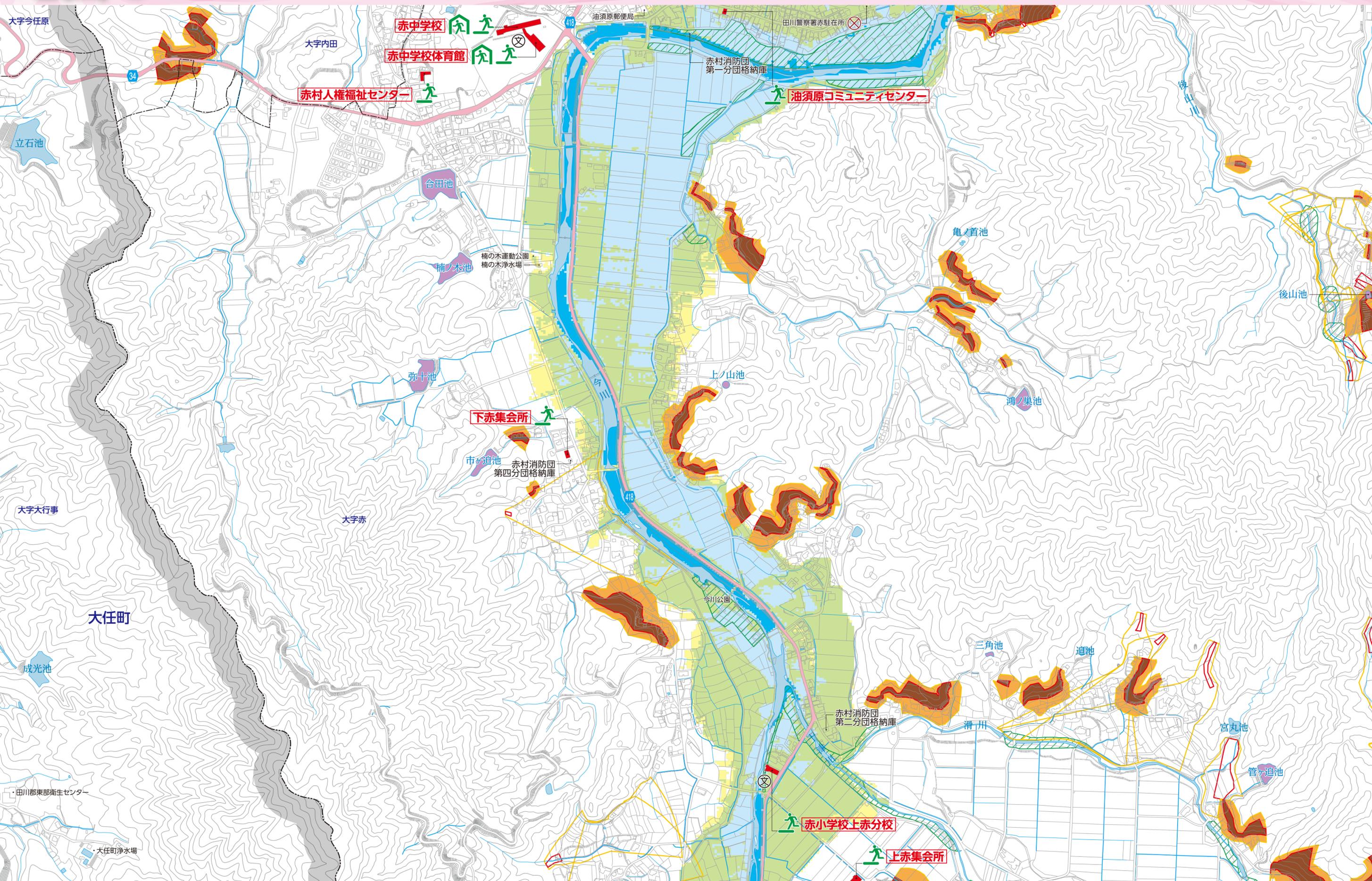
凡例		指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
		指定避難所		県道		村役場
				防災重点ため池		学校

危険がある場所 土砂災害の	急傾斜地	土石流	地すべり
		特別警戒区域	
		警戒区域	

洪水浸水想定 浸水深区分		5m 以上～10m 未満
		3m 以上～5m 未満
		0.5m 以上～3m 未満
		0.5m 未満

浸水実績区域
平成 24 年 7 月
九州北部豪雨

1 : 6,800
0 100m 200m



地図 6

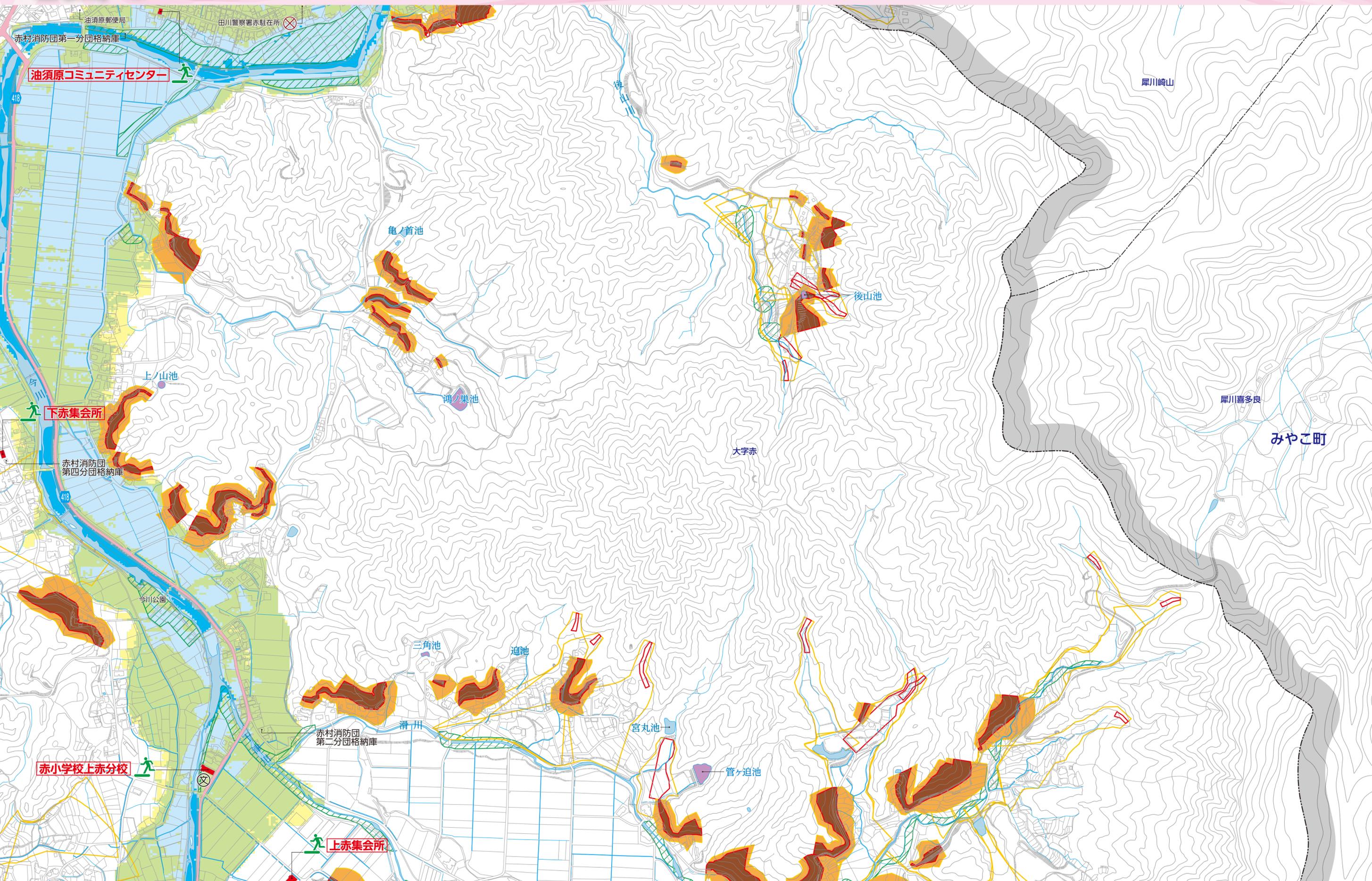
凡例		指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
		指定避難所		県道		村役場
				防災重点ため池		学校

危険がある場所 土砂災害の	急傾斜地	土石流	地すべり
	特別警戒区域	特別警戒区域	警戒区域
	警戒区域	警戒区域	警戒区域

洪水浸水想定 浸水深区分		5m 以上～10m 未満
		3m 以上～5m 未満
		0.5m 以上～3m 未満
		0.5m 未満

浸水実績区域
平成 24 年 7 月
九州北部豪雨

1 : 6,800
0 100m 200m

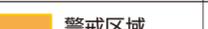
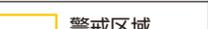


地図 7

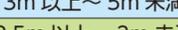
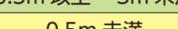
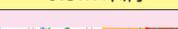
凡例

	指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
	指定避難所		県道		村役場
			防災重点ため池		学校

危険がある場所
土砂災害の

	急傾斜地 特別警戒区域		土石流 特別警戒区域		地すべり 警戒区域
	警戒区域		警戒区域		

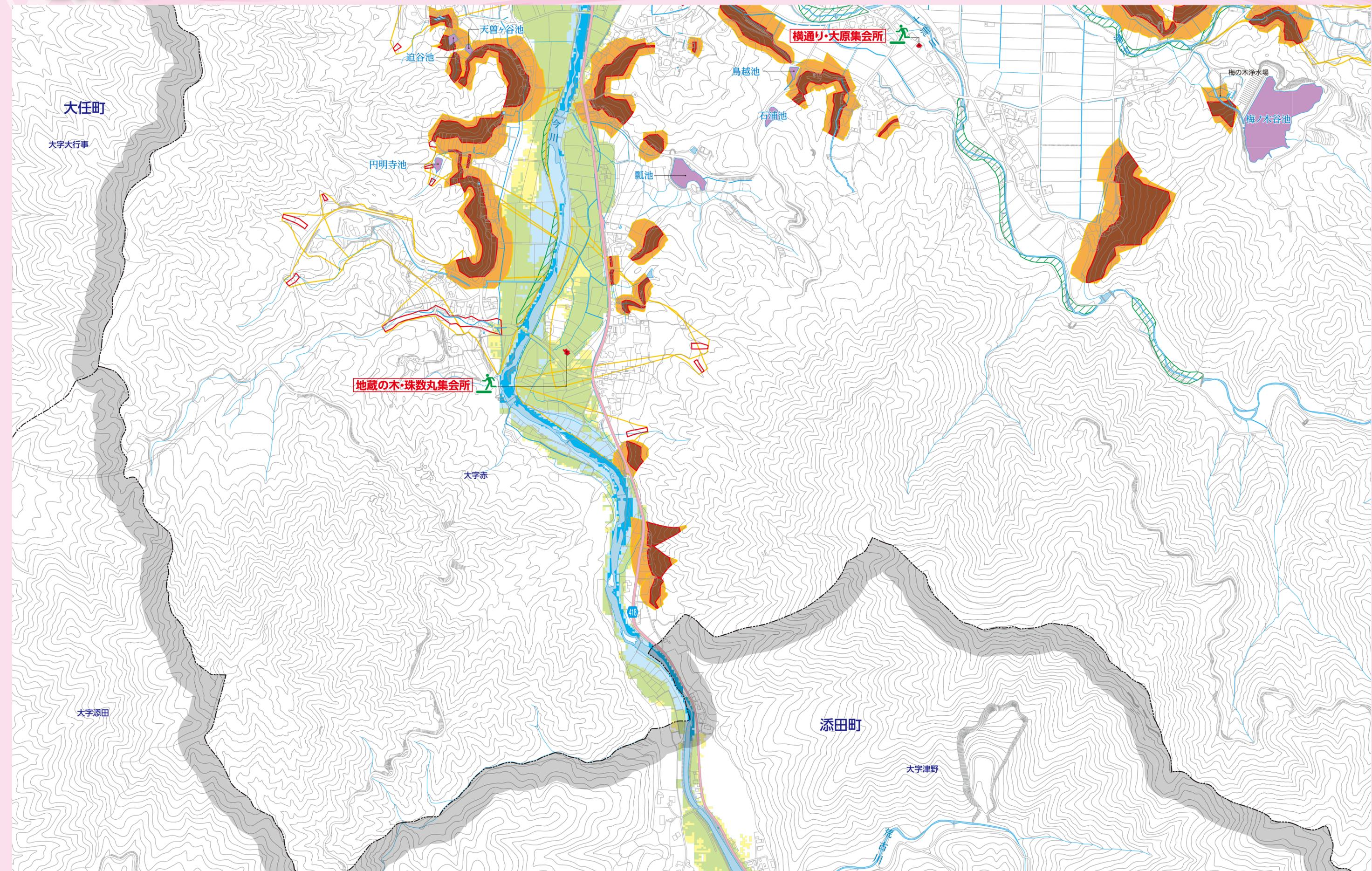
洪水浸水想定
浸水深区分

	5m 以上～10m 未満
	3m 以上～5m 未満
	0.5m 以上～3m 未満
	0.5m 未満

浸水実績区域

平成 24 年 7 月
九州北部豪雨

1 : 6,800
0 100m 200m

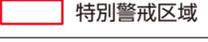



地図 8

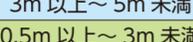
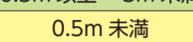
凡例

 	指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
	指定避難所		県道		村役場
			防災重点ため池		学校

危険がある場所
土砂災害の

急傾斜地	土石流	地すべり
 特別警戒区域	 特別警戒区域	 警戒区域
 警戒区域	 警戒区域	

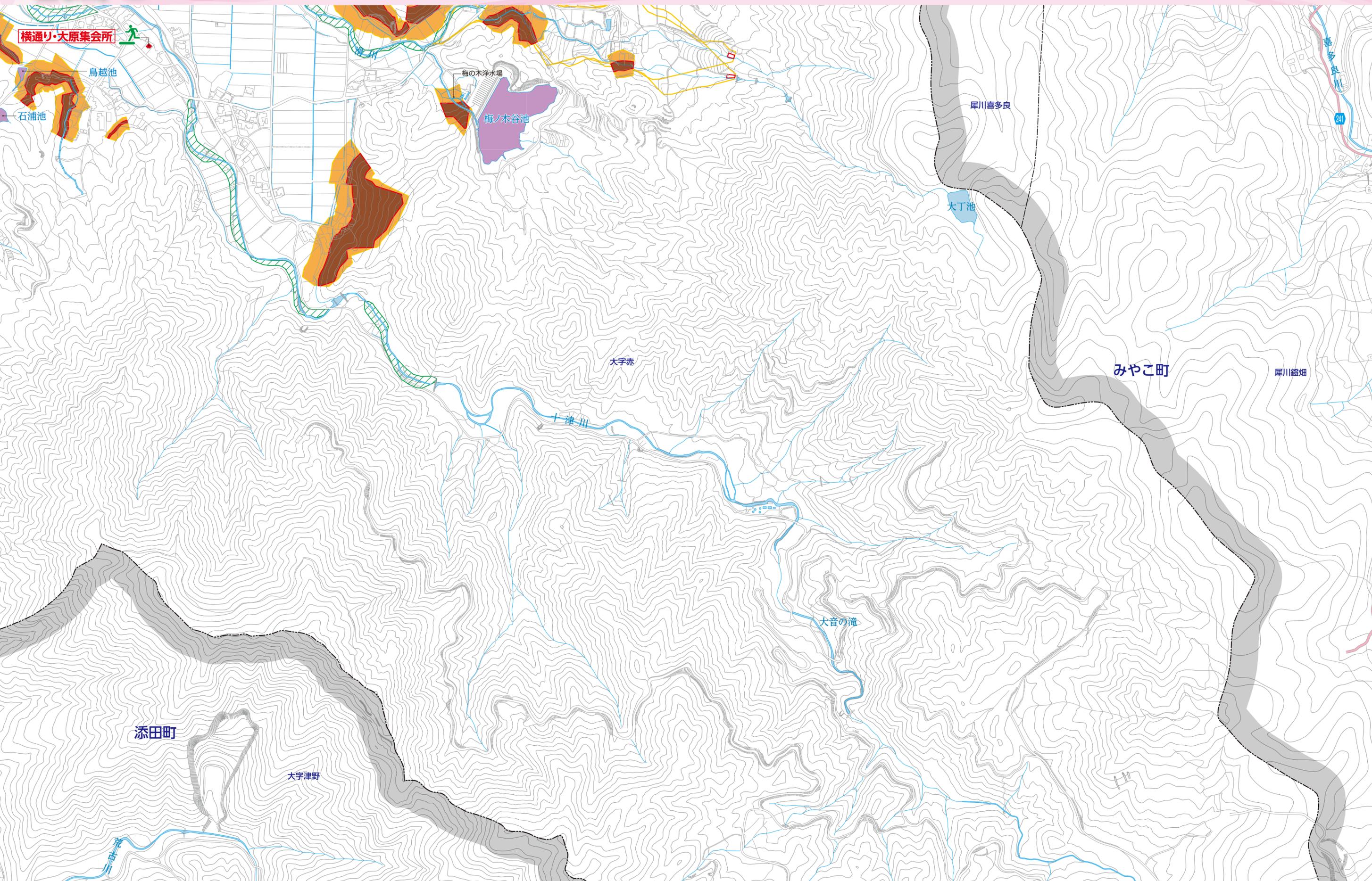
洪水浸水想定
浸水深区分

 5m 以上～10m 未満
 3m 以上～5m 未満
 0.5m 以上～3m 未満
 0.5m 未満

浸水実績区域

平成 24 年 7 月
九州北部豪雨

1 : 6,800
0 100m 200m



地図 9

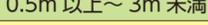
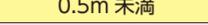
凡例

	指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
	指定避難所		県道		村役場
			防災重点ため池		学校

危険がある場所
土砂災害の

急傾斜地	土石流	地すべり
 特別警戒区域	 特別警戒区域	 警戒区域
 警戒区域	 警戒区域	

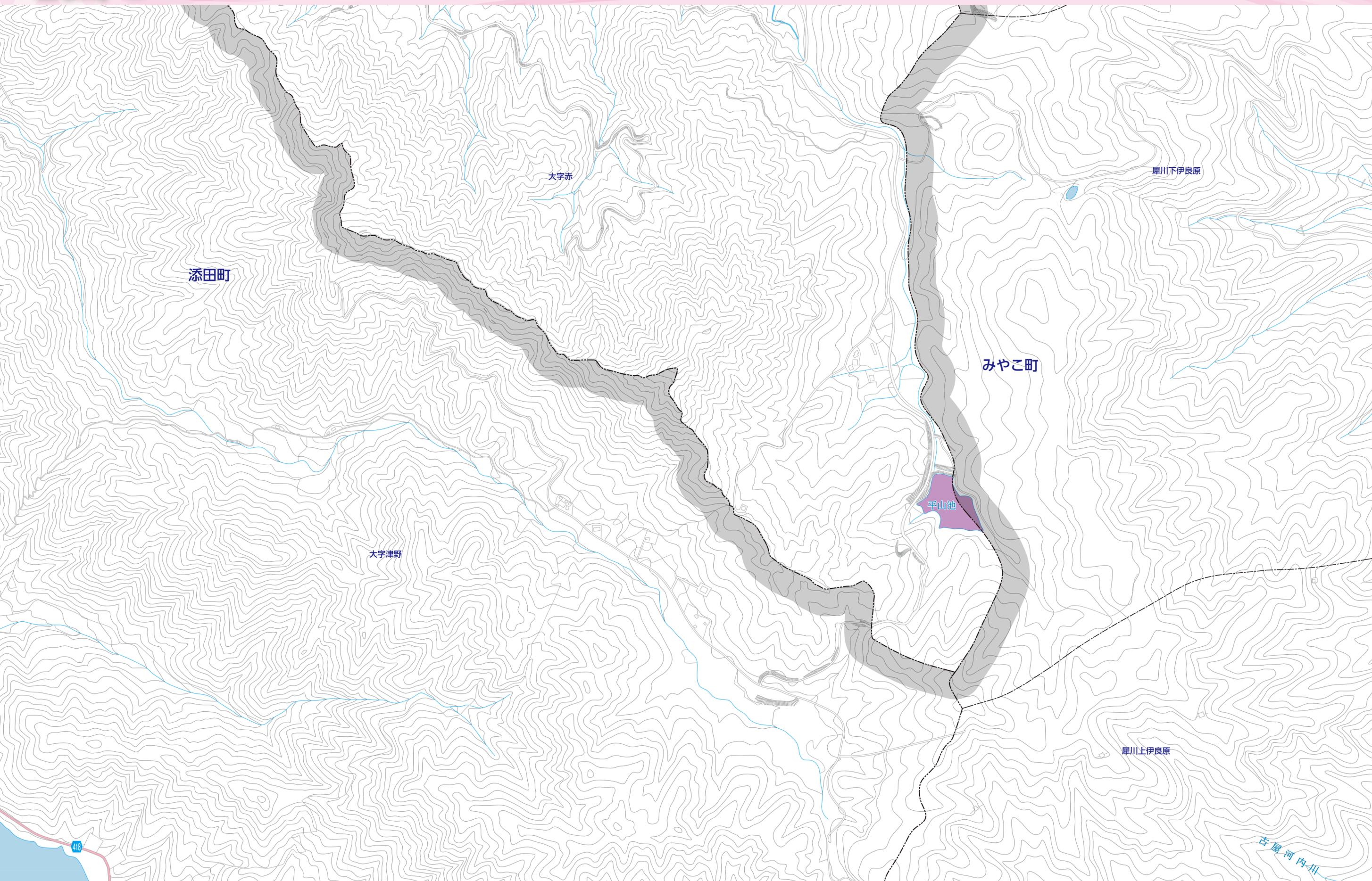
洪水浸水想定
浸水深区分

 5m 以上～10m 未満
 3m 以上～5m 未満
 0.5m 以上～3m 未満
 0.5m 未満

浸水継続区域

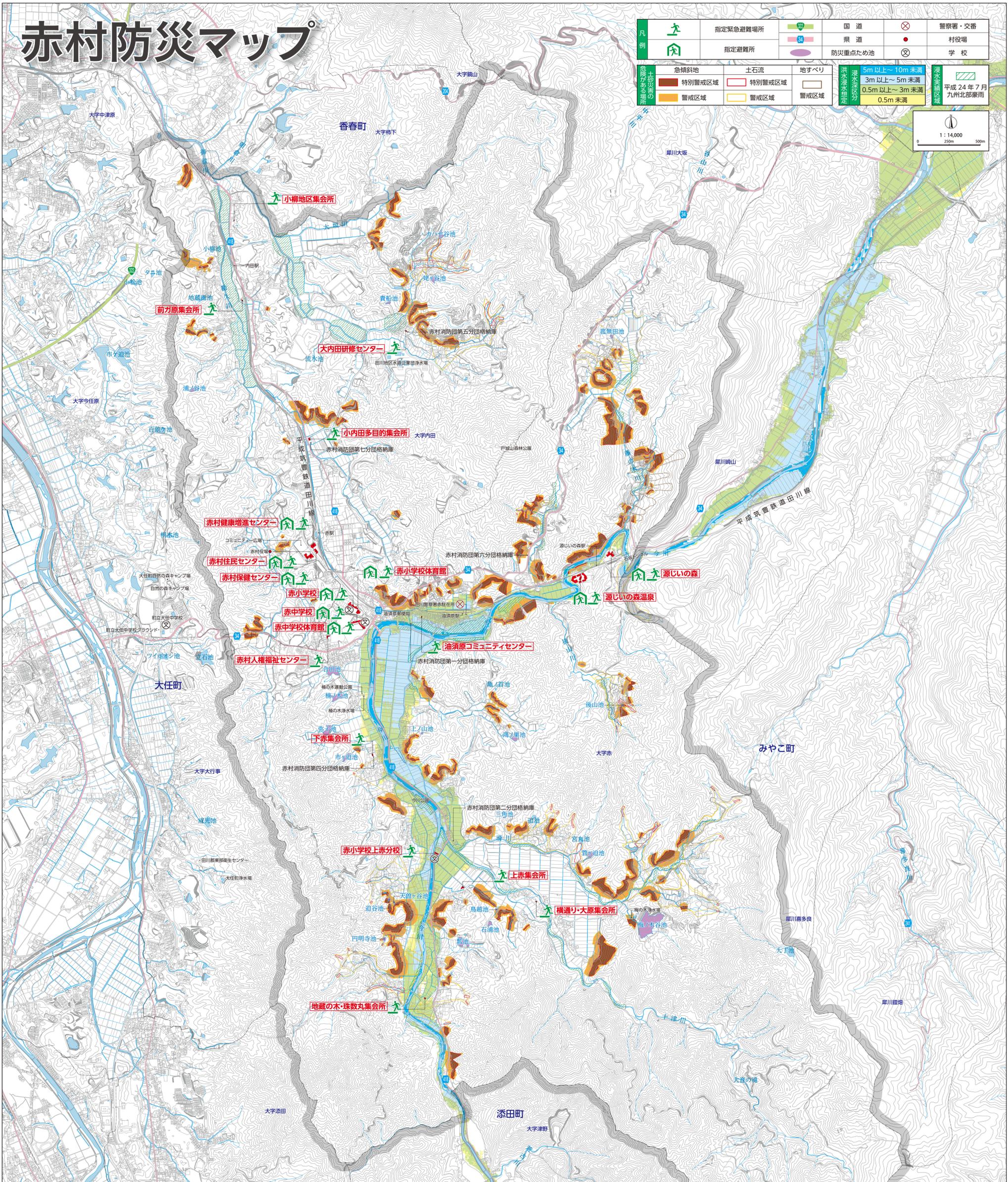
平成 24 年 7 月
九州北部豪雨

1 : 6,800
0 100m 200m



赤村防災マップ

凡例		指定緊急避難場所		国道		警察署・交番
		指定避難所		県道		村役場
		危険がある場所		防災重点ため池		学校
		急傾斜地		土石流		地すべり
		特別警戒区域		警戒区域		警戒区域
		洪水浸水想定		洪水浸水区分		洪水浸水区分
		浸水浸水区域		浸水浸水区域		浸水浸水区域



No.	避難施設名	指定緊急避難場所としての指定					指定避難所としての指定
		洪水	内水氾濫	土砂災害	地震	大規模火災	
1	赤村住民センター	○	○	○	○	○	○
2	赤小学校	○	○	○	○	○	○
3	赤小学校体育館	○	○	○	○	○	○
4	赤小学校上赤分校	×	○	○	○	○	○
5	赤中学校	○	○	○	○	○	○
6	赤中学校体育館	○	○	○	○	○	○
7	赤村人権福祉センター	○	○	○	○	○	○
8	上赤集会所	○	○	○	○	○	○
9	小内田多目的集会所	○	○	○	○	○	○
10	大内田研修センター	○	○	○	○	○	○
11	小柳地区集会所	○	○	○	○	○	○
12	源じいの森	○	○	○	○	○	○
13	赤村健康増進センター	○	○	○	○	○	○

No.	避難施設名	指定緊急避難場所としての指定					指定避難所としての指定
		洪水	内水氾濫	土砂災害	地震	大規模火災	
14	赤村保健センター	○	○	○	○	○	○
15	源じいの森温泉	○	○	○	○	○	○
16	下赤集会所	○	○	○	○	○	○
17	地蔵の木・珠数丸集会所	×	○	×	○	○	○
18	横通り・大原集会所	○	○	○	○	○	○
19	前ガ原集会所	×	×	○	○	○	○
20	油須原コミュニティセンター	×	○	○	○	○	○

この地図は、赤村長の承認を得て、同村公所の測量成果赤村基本図1/2,500を使用して調製したものです。(承認番号)平成31年4月5日 31赤産建第15号-1] (無断複製) ©2020 ZENRIN CO., LTD.